

Act～体で分かり合うこと～

始まり～他者の視点に立つことの難しさ～

2014 年の授業「社会貢献のためのクリエイティブな発想と実践」で、初めて私たち大学生は参加型演劇という手法を知りました。障害者施設、高齢者団地など様々な現場でフィールドワークを行い、印象に残る場面を参加型演劇のワンシーンとして再現しようとしています。しかし「他人の立場に立つ」という当たり前のことを理解するのは簡単ではありませんでした。自分たちが今まで生きてきた約 20 数年が、どれだけ人の気持ちを分かっていた「つもり」だったのか、省みる機会となりました。



前回の館ヶ丘団地実践～参加型演劇の実践～

授業終了後、私たち大学生は東京都八王子市にある館ヶ丘団地でこの手法を実践しました（昨年 9 月）。館ヶ丘団地は高齢化の波を大きく受けています。しかし、数年前から「フラット相談室館ヶ丘」という拠点が出来たことで大きく団地内の雰囲気が変わり始めています。この、今まさに転換期を迎えている現場でフィールドワークを行い、自分たちの「気付き」を参加型演劇で実践しました。



今回は「個人」に着目する～視点の共有～

実際に館ヶ丘団地に住んでいて、他の人はどのように生きてきたのか、どんな風に生活をしているのか考えたことはありませんか。私たちは今回、館ヶ丘団地でたまたま出会った人々に焦点を当ててみました。館ヶ丘団地で暮らしている人々がどんなことを考えてどんな生活をしているかを感じて、それを演じてみようと思っています。それぞれの人に様々な人生があり、過去の経験がその人を形作っています。他の人にとってとても大きくて大事なことを共有してみることで、目には見えなくても何かつながりが生まれるきっかけになるのではないかな。理論だけでやるのではない何かができるのではないかな。そんな風に考えています。